

命とく宝

読谷中学校一年 國吉 祐那

おなさんへ、未来について考えたことかありますか。私は、夢や未来について考えることが、どんなに幸せなことか、いくつかの体験を通して知ることかできました。

中学校に入り、平和や戦争に関するさまざまな活動に取り組みました。活動をする中で、小学校からこれまでの私の平和学習の体験を振り返り、てみると、印象的だったいくつかの体験がありました。たことを思いました。

私が小学校三年生の頃、学校で「村馬丸」のDVDを見たことをきっかけに、夏休みに家族で「村馬丸記念館」に行きました。

当時の私は、平和について深く考えたことがなかったが、たため、当時の記念館の展示物は心が「キュッ」としめつけられるような気持ちになりました。たのを覚えていきます。

とてもポロポロになっただウンとセルの写真パネル。その写真のそばで、知らないおばあ

さんが、声も出さず、優しく静かに泣いてい
 ました。ま、ランドセルの写真から何か
 を感じたのでしよう。小学校三年生なから、
 私の記憶に残る印象的な場面でした。
 この出来事から約三年後。小学校六年生の
 頃、人権について考える、人権の日しに
 放送で流れていた曲。それは、キロロの「任
 せてこそ」という曲でした。その曲の
 ママ、私が生まれた日の空はどんな色
 と、いう歌詞に、私はあのランドセルの写真と
 命という宝、という言葉が頭に浮かびました。
 戦時中、産まれてすぐになくなくな
 った子どもたち。お母さんの顔を見ることな
 生か別れになつた子どもたち。ま、とたく
 んいたたろううと思ひます。
 子どもも大人も、お年寄りも赤ちゃんの未
 来を奪つてい、た戦争。戦争を忘れてはいけ
 ないと考えたとき、私は、今を生きたい。一
 生懸命生きたい。と思ひようになりまし
 平和学習に取り組み中で、私は自分が欲張

りのような気がしてました。こんな風に平和
で楽しく過ごせている。それだけで幸せなの
に、その幸せに気がづかずに不満を言う日々。
自分がいかに甘えているかを考えさせられてま
した。

私には夢があります。自分はなりたい自分
になれる未来があります。そのことか、どん
なに幸せなことがあるか、いまし、かりかみしめて
私らしく生きることができたら、と思います。